

当科の現状

「実力」というより「努力」



循環器内科代表部長
中野 明彦

2011年に医師が大幅に入れ替わり、診療へのコンセプトも変わって、7年経ちました。

	外来新患（紹介患者数：紹介率）	入院新患（紹介患者数：紹介率）	入院・外来逆紹介数（率）
2010年度	905（384：42.4%）	762（229：30.1%）	782（46.9%）
2011年度	1165（533：45.7%）	1239（442：35.7%）	1034（43.0%）
2012年度	1323（417：31.5%）	1292（463：35.8%）	1147（43.9%）
2013年度	1319（434：32.9%）	1220（475：38.9%）	1071（42.2%）
2014年度	1098（496：45.2%）	1192（521：43.7%）	1102（48.1%）
2015年度	1083（462：42.7%）	1108（429：38.7%）	1052（48.0%）
2016年度	1142（455：39.8%）	1255（460：36.7%）	1090（38.2%）
2017年度	1245（497：39.9%）	1331（478：35.9%）	1142（44.3%）

	カテーテル総数（検査・治療）	カテーテル治療総数	PCI成功率
2010年度	467	144	-
2011年度	989	400	97.1%
2012年度	1046	448	97.5%
2013年度	996	442	97.0%
2014年度	978	442	97.7%
2015年度	880	386	96.8%
2016年度	999	453	98.7%
2017年度	1146	537	99.0%

薬剤治療や侵襲的治療器具の進歩により、多くの循環器疾患患者さんは自宅近くの病院で標準的な治療を受けられるようになってきました。裏を返せば、循環器領域では病院の差別化が図りにくい時代になったとも言えます。

我々は「実力」と大上段に構えるに相応しい“力”など持ち合わせておりません。ですが『断らない医療』を目標に「努力」は重ねております。可能な限り断らないのは、ご紹介いただいた先生方・当院当

科をお選びいただいた患者さんや救急隊の皆様にし訳ないと思うからです。院内ではこの点において少々温度差がありますが、我々の努力が2011年以降のドラスティックな変化に繋がっていると自負しております。

我々の想いを理解し協力を惜しまない病棟およびHCUのスタッフ、技術系のコメディカルの皆様には感謝しております。

